

彦根旧港湾を活用した水際のデザイン

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1230019 市来原 悠也

指導教員 重山 陽一郎

1. 対象敷地

図.1 対象敷地(国土地理院の地図に筆者加筆)

対象敷地は、滋賀県彦根市の彦根城と総合運動場との間にある、彦根旧港湾を含む運河がある図.1 中の枠で囲われた場所である。



1-1 彦根城

江戸時代初期、現在の滋賀県彦根市金亀町にある彦根山に、鎮西を担う井伊氏の拠点として築かれた平山城である。天守と付櫓及び多聞櫓の2棟が国宝に指定されるほか、安土桃山時代から江戸時代の櫓・門など5棟が現存し、国の重要文化財に指定されている。

1-2 金亀公園第一種陸上競技場

2025年に滋賀県で第79回国民スポーツ大会および第24回全国障害者スポーツ大会が開催される。それに伴い、彦根市では主会場として第一種陸上競技場が新たに整備されている。

1-3 彦根旧港湾

元々彦根城の外堀の一部であったが、1927年に彦根港が竣工した。1967年に老朽化に伴い、現在の彦根港に移転し、跡地は図.2のように彦根旧港湾として残っている。



図.2 彦根旧港湾

2. 課題

課題として以下の4つが挙げられる。

2-1

対象敷地は、運河の持つポテンシャルが活かされていないために、歴史的な価値のある彦根城や新設される第一種陸上競技場と比べて見劣りしている。

2-2

運河沿いに遊歩道はあるが、通行のために整備されているだけで、植栽に阻まれて歩きながら運河を眺めるには適していない。

2-3

図書館が運河の近くにあるが、運河側が壁面になっており、運河の近くにあるという強みを活かしていない。

2-4

彦根港が現在の位置に移転して以降、跡地が彦根旧港湾として残されているものの、利用されていない。

3. 目的

本設計では、第一種陸上競技場と彦根城の接続空間として、彦根旧港湾を含む運河のポテンシャルを活かした過ごしやすい空間を生み出すことを目的とする。

4. 設計方針

設計方針として以下の5つを挙げる。

4-1

対象敷地は、彦根城と第一種陸上競技場の接続空間でもあるので、それにふさわしく整備された気持ちのいい空間にする。

4-2

プロムナードを拡幅し、運河を眺めながら歩ける気持ちのいい空間を設計する。

4-3

運河沿いにあるということを活かした図書館を設計する。

4-4

彦根旧港湾を港として再利用し、その周辺に再び活気をもたらす。

4-5

気持ちよく施設を利用できるように、対象敷地西側は運動を行う動的な空間、東側は図書館として静的な空間でゾーニングを行う。

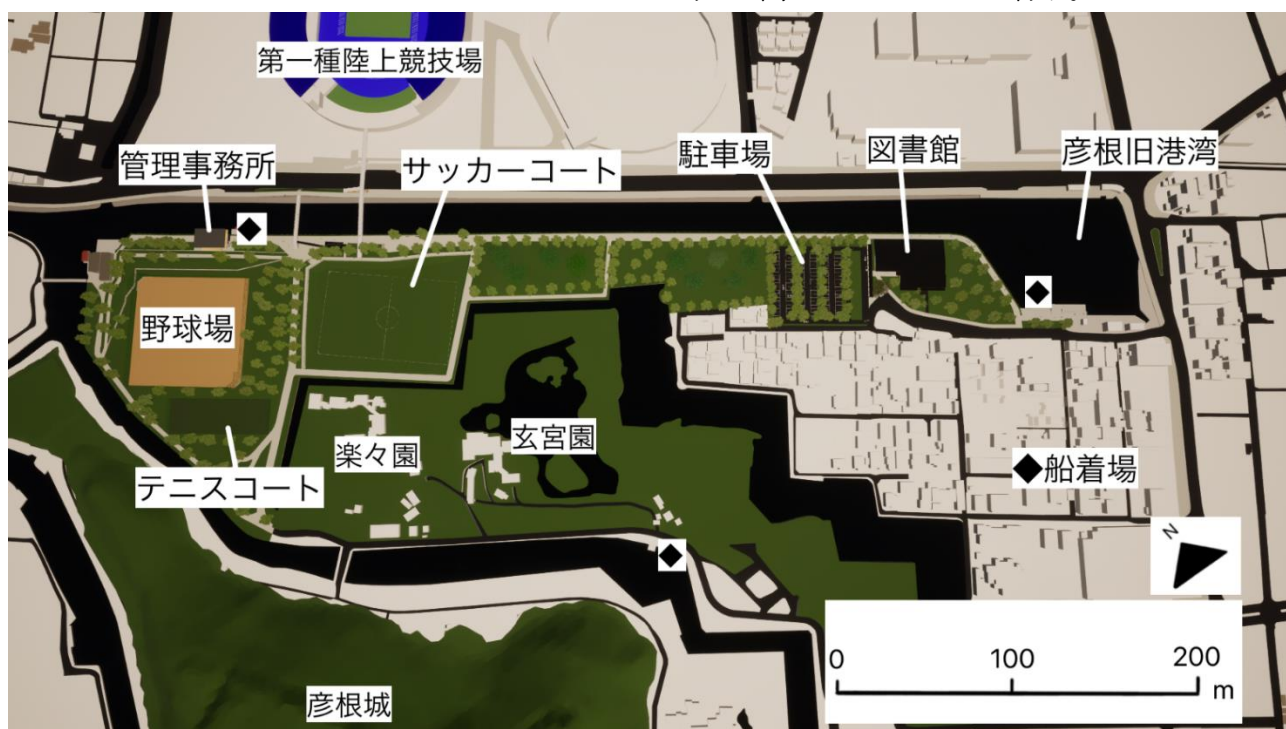


図.3 敷地平面図

5. 設計

5-1 プロムナード

現在の彦根旧港湾は、ただ歩けるだけでプロムナードは狭く、単調で歩いて楽しい空間とは言えない。プロムナードを整備することで美しい運河をより楽しめると考えた。



図.4 彦根旧港湾



図.5 プロムナード

卒業設計概要

そこで、プロムナードを再整備するにあたり、平坦な土地として計画するか、盛り土を行い起伏のある土地として計画する2つの案を比較・検討した。図.6のように平坦なプロムナードとして計画すると見通しは効くが、同じような空間が連続してしまい、歩いたときに飽きてしまう。

一方、図.7のように盛り土をすると平坦なプロムナードより視線の通りが悪くなるが、空間は変化に富み、プロムナードを歩いていて飽きない空間になる。

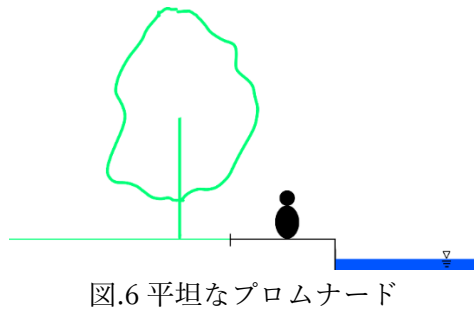


図.6 平坦なプロムナード

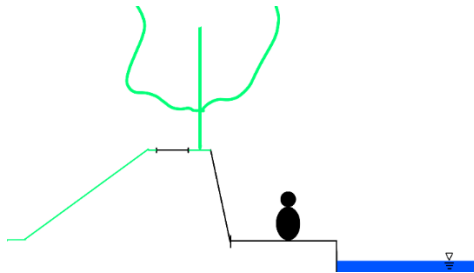


図.7 起伏のあるプロムナード

最終的に平坦なものとし盛り土をする案を併用することで単調さを緩和した。

また、対象敷地が彦根城の外堀の一部であった歴史があるため、法面には石垣を採用した。

5-2 図書館

現状運河と図書館が隔絶されているため、関係性が無い。運河沿いにガラス張りの図書館を配置し、図.9のように運河を眺められるようにした。



図.8 図書館



図.9 図書館1階からの見た運河

また、現況だと、彦根旧港湾を図.10中の矢印の方向から眺めた時に、駐車場が見えるのは景観的に勿体ない。

そこで、本設計では図書館と駐車場の位置を入れ替えた。



図.10 図書館と駐車場の位置関係

読書や調べものの休憩や地域住民の交流の場として図書館内にカフェを併設した。

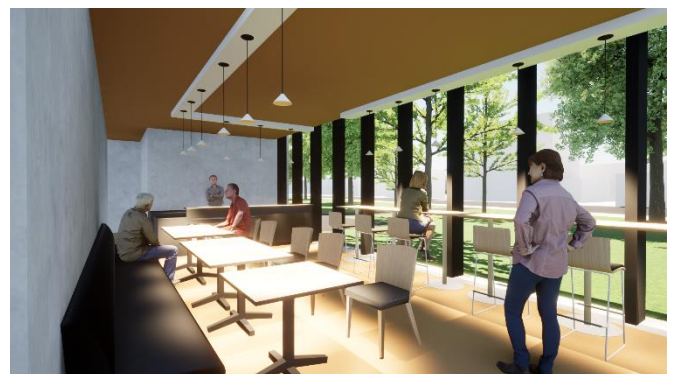


図.11 カフェ

駐車場と図書館の位置を入れ替えたことで、彦根旧港湾から図書館がよく見える。そのため、バックヤードは運河から離れた南側に配置した。(図.12)



図.12 図書館 1 階平面図

5-3 第一種陸上競技場との接続空間

第一種陸上競技場側から来た人がどこに行けばいいかわかるように、植栽をした。



図.13 第一種陸上競技場との接続空間

5-4 管理事務所

本設計では現在ある管理業務を行う事務所に加えて、運動後に利用するシャワー室、運動後の軽食や飲み物を買、休憩出来るスペースを設けた。

また、管理事務所を運河に面した位置に配置することで、盛り土をして作った石垣の遊歩道と運河を結ぶ役割も持たせた。



図.14 管理事務所と船着場

5-5 船着場

現在彦根城の内堀で行われているお堀巡りの航行

ルートを彦根旧港湾にまで延長し、彦根旧港湾と管理事務所をお堀巡りの船着場として整備する。



図.15 航行ルート

これによって、お堀巡りの船を見た第一種陸上競技場に観客として訪れた人々を彦根城に引き込むきっかけとなり、彦根城にも賑わいをもたらす。

また、彦根旧港湾を再利用することで、その周辺に再び活気をもたらす。



図.15 彦根旧港湾の船着場

6. まとめ

対象敷地を再整備したことで彦根旧港湾を含む運河のポテンシャルを活かした過ごしやすい空間となった。

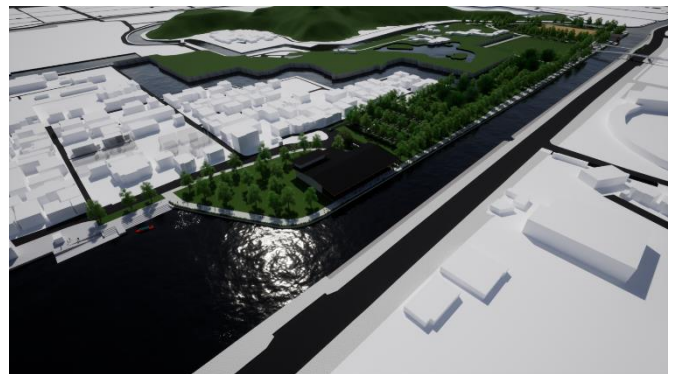


図.16 全体パース